

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月7日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>(1) 一人ひとりのニーズに合わせた教育を実践する</p> <p>(2) 「自立と社会参加」をめざし、幼稚部から高等部まで子どもたちが主体的意欲的になる授業を実践する</p> <p>(3) 「授業改善プロジェクト」を継続し、授業改善に組織的に取り組む</p>	子どもが主体的意欲的になる授業を実行する	<p>①太田のステージなどのアセスメントを実施し、個別教育計画の作成に活用する。</p> <p>②個別教育計画見直し日を設定し、個々のニーズに合わせた実践を行う。</p> <p>③授業改善プロジェクトを継続し、グループ授業改善日の設定など、システムとしての授業改善を実践する。</p> <p>④教室環境整備の一環として、「フロントゼロデー」を設け、教室前面の余分な刺激を減らす取り組みを行う。</p> <p>⑤個別教育計画と連動した指導案、指導略案の書式を作成する。</p>	<p>①実施したアセスメントを個別教育計画作成に活用したか。</p> <p>②個別教育計画の見直しを実施し、授業に活かすことができたか。</p> <p>③システムとしての授業改善ができたか。</p> <p>④「フロントゼロデー」の取り組みを実施したか。</p> <p>⑤新しい指導案、指導略案の書式を作成し研究授業等に使用したか。</p>	<p>①アセスメントの実施や活用を推進した。</p> <p>②見直しの時期を設定し実態に合った目標設定ができた。</p> <p>③グループ授業改善日を有効活用して取り組むことができた。</p> <p>④「フロントゼロデー」「環境整備デー」をきっかけに、日常の中で意識して取り組むことができた。</p> <p>⑤研究授業において、個別教育計画と連動した指導案の書式を使用できた。</p>	<p>①活用をさらに推進するため、研修会等の実施を検討する。</p> <p>②次年度も同様に見直し日を設定し、実態に応じた目標設定の習慣化を図る。</p> <p>③部によっては統一したテーマを決めることが困難。</p> <p>④引き続き「フロントゼロデー」「環境整備デー」を設定し、職員間で啓蒙する。</p> <p>⑤個々の生徒の個別教育計画を意識した授業づくりをしている。</p>	<p>・余暇活動の時間が多。国語や数学の時間を増やして欲しい。 〈保護者アンケート〉 個別教育計画は子どもの実態に合わせて作成されているか：B以上96% ・個別教育計画の見直しを年間2回実施していることは評価できる。 ・水曜日短縮日課等には宿題をこなすなど、学習時間の確保が努めることが必要。 ・フロントゼロデー等の取り組みを行うことは大切である。 ・子どもがどのような特性をもっているのかを理解し、親や本人の気持ちを受け入れるようにすることが必要</p>	<p>①保護者からは高い評価を受けた。教員の意識付けはできているが、十分な活用には至っていない。</p> <p>②実態に合った目標設定ができた。</p> <p>③授業改善に取り組む姿勢ができてきたので、今後も一人ひとりが主体的にシステムを活用し活性化を図る</p> <p>④職員間での意識付けができ、教室前面の掲示物等の整理ができた。</p> <p>⑤研究授業では、個別教育計画と連動した授業展開を計画できたが、指導(略)案の作成は検討中。</p>	<p>①校内研修や専門職との連携等を通して、障害特性やニーズに有効な支援等の改善に努める。</p> <p>②見直し日の設定を継続し、担任間で評価・改善を行い、発達段階に応じた効果的な授業実践に取り組む。</p> <p>③全職員が年1回主体的に授業を公開する。</p> <p>④「フロントゼロデー」「環境整備デー」の取り組みを継続し、合理的配慮等の意識の強化を図る。</p> <p>⑤指導案に個別教育計画内容をどのように反映するか検討し、書式の作成に着手する。</p>
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>(1) 一人ひとりの障害の特性や教育的ニーズに有効な支援ができるよう「複数の専門性」を持つよう自己研鑽につとめる</p> <p>(2) 「ICT推進プロジェクト」を継続していく</p> <p>(3) アセスメントを充実させ授業に反映させる</p>	一人ひとりのニーズに応え共に成長する教育を推進する	<p>①個々の教育的ニーズに有効な支援ができるような校内研修を実施する。</p> <p>②障害特性や指導方法についてお互い学び合う学部部門ごとの研修を実施する。</p> <p>③ICT推進プロジェクトによるタブレット型端末を活用した指導事例の共有と活用を実践する。</p> <p>④関係機関と連携したり、指導方法を確認したりするケース会議を実施する。</p> <p>⑤学校アセスメントや新体力テスト、MEPA-II R、太田のステージ評価、広D-K式検査、読書力診断検査、PVT-R 絵画語い発達検査等のアセスメントを個々のニーズに応じて実施し授業に活かす。</p>	<p>①個々の教育的ニーズに適した校内研修が実施できたか。</p> <p>②学部部門ごとのニーズに即した研修を実施したか。</p> <p>③タブレット型端末の活用が増えたか。</p> <p>④課題解決につながるケース会議を実施したか。</p> <p>⑤個々のニーズに応じてアセスメントを実施し授業に活かすことができたか。</p>	<p>①全校統一サイン、水泳指導法、太田ステージなどについて研修会を行った。</p> <p>②各学部部門において様々な研修を実施することができた。</p> <p>③タブレット型端末をTVに映すことで、集中力が続かない生徒に、興味関心を持たせることができた。</p> <p>④クラスごとに計画を立て、ケース会議を実施した。また、必要に応じて関係機関と連携したケース会議を行った。</p> <p>⑤各種アセスメントを児童生徒の実態に合わせて行った。新体力テストの結果から授業内容を実態に合ったものに見直すことができた。</p>	<p>①幼児児童生徒の実態に合った研修ができていたため。今後も、継続した研修を実施する。</p> <p>②担任が研修を企画する難しさがある。</p> <p>③障害によって使い勝手に課題があるため、スイッチ等、入力方法の改善を行い活用しやすい環境を作る。</p> <p>④盲学校やろう学校と同様の支援を子どもたちに行っていく必要がある。</p> <p>⑤アセスメントを十分に活用できていない部分もあるため、授業作りにおけるアセスメントの活用について、他学年と情報交換しながら仕組みについて研究していく。</p>	<p>・子どものやる気を引き出す手作りカード、授業改善プロジェクトや各種研修などの取り組みは、評価できる。</p> <p>〈保護者アンケート〉 子どもの教育的ニーズに応じた、支援や指導が行われているか：B以上91% ・Gボールの講習会に参加した。体力づくりの中に取り入れるなどの取り組みが必要 ・ICTの利用については、教育活動に有効である ・ろう学校などともっと交流や情報交換することが必要 ・一人ひとり個性を考え真剣に取り組んでいることは大きい評価できる。</p>	<p>①子どもの教育的ニーズに適した種々の校内研修を通して、専門性やスキルの向上に繋げることができた。</p> <p>②学部部門ごとに研修会を通して、組織的な人材育成や学びあう姿勢が醸成できたが、内容や時間確保について検討が必要。</p> <p>③校内のタブレット型端末の活用方法の理解が進み、授業への活用力が向上した。</p> <p>④ケース会議を月予定に位置付けたため、ケース会議開催や関係機関との連携の意義、必要性について理解が深まった。有効なケース会議となるよう学部と関係部署とが密な連携を図る必要がある。</p> <p>⑤各種アセスメントを児童生徒の実態に合わせて実施し、授業内容を見直すことができたが、アセスメントを十分に活用できていない部門もあった。</p>	<p>①内容・日程・主催グループ等について見直し・精選を行い、より子どもの多様なニーズに対応できる研修会を実施する。</p> <p>②研究日や学部の持ち方を工夫し、障害特性や課題等について学び合い高め合う研修を実施する。</p> <p>③今後も授業の中で積極的・有効的に活用できるよう勉強会、研修会を継続する。</p> <p>④学部と関係部署が連携を図り、目的や参加者を整理したうえで、課題解決、未然防止的なケース会議等の取り組みを進めていく。</p> <p>⑤他学年と情報交換しながらアセスメントを実施し授業に活かす仕組みについて研究を進める。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月7日実施)	総合評価(3月24日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)子どもたち一人ひとりの生活の充実をめざし、発達段階に応じた進路指導・支援を行う	学校及び地域社会での一貫したキャリア教育を実行する	①キャリア教育の視点で卒業後の生活をイメージしながら、支援の方向性を検討していく。 ②個別の支援計画と連動した進路指導や支援を行う。 ③近隣の幼稚園・保育園・小中学校・高等学校・大学等との交流及び共同学習を実施する。 ④地域の商店会・企業等地域資源と連携したキャリア教育に取り組む。	①卒業後の生活をイメージして方向性を検討できたか。 ②生徒一人ひとりのニーズに即した進路指導や支援ができたか。 ③近隣の幼稚園・保育園・小中学校・高等学校・大学等との交流及び共同学習ができたか。 ④地域の商店会・企業等地域資源の活用や連携ができたか。	①②進路ケース会議等を通して、卒業後の生活をイメージした方向性について検討し、生徒一人ひとりのニーズに即した進路指導や支援ができた。 ③様々な交流及び共同学習ができた ④地域イベントへの参加など、地域と連携したキャリア教育が実践できた。	①②進路支援チームとも連携を深め、高等部卒業後の進路先や社会に出るために今何が必要か等の収集に努める。 ③学校間交流と居住地交流のすみわけを整理する必要がある。 ④来年度、地域イベントと本校の行事が重なる可能性があり、調整が必要となる。	・居住地交流や共和小中学校との交流等これからも積極的に実施する必要がある。 ・校外学習におけるスイカや切符の購入方法等貴重な体験学習は評価できる。 〈保護者アンケート〉 卒業後の生活のイメージを保護者・担任間で共有できていますか:B以上78%	①②「個別の支援計画策定会議」等を通して、保護者や関係機関と卒業後の生活をイメージし、教育活動や支援の方向性を共有することができた。 ③幼児児童生徒の豊かな地域生活の基盤づくりに取り組めたが、学校間交流と居住地交流のすみわけを整理する必要がある。 ④地域の資源を活用した校外学習を計画的に取り組むことができたが、校外学習の意義や目的を教員間で共有し、指導の系統性を高めていくことが必要である。	①②何のための教育活動なのか問い直し卒業後の生活を見据えた系統性ある授業改善に取り組む。 ③共生社会づくりの進展に向け、双方にとって効果的な交流となるよう課題を整理して取り組む。 ④学部経営チームで取り組んだ校外行事のねらいの基本的な捉え方について学部部門で共通理解を図る。
4	地域等との協働	(1)地域の支援教育のランドマークとしての役割を実行する (2)インクルーシブ教育の推進	地域の支援教育センターの役割を実行する	①相模原市内の支援教育の充実を目指して、インテーク会議の実施、各種研修会への講師派遣、学校コンサルテーション、教育相談等を行う。 ②乳幼児相談を充実させ、相模原市内の難聴児学級や弱視学級と連携し、早期発見、早期療育を支援する。 ③学校行事や様々な機会を通して、地域に開かれた学校づくりをすすめる。 ④校内のインクルーシブ教育推進のため、学部・部門・学年を超えた共同学習を継続、発展させる。	①インテーク会議の実施、各種研修会への講師派遣、学校コンサルテーション、教育相談等ができたか。 ②難聴児学級や弱視学級と連携した支援ができたか。 ③施設開放、学校へ行こう週間、福祉機器展、交流デイ、ゲストティーチャー、NPO・公民館等との連携、地域イベント・作品展等への参加ができたか。 ④学部・部門・学年を超えた共同学習を継続、発展させることができたか。	①相模原市の支援教育の充実を目指して、各種研修会への講師派遣や幼保小中高校等へのコンサルテーション、教育相談等を実施することができた。 ②乳幼児相談は周知を図っているが、関係機関に知られていない部分も多かった。 ③施設開放、学校へ行こう週間、福祉機器体験会、全校交流デイ、ゲストティーチャー、NPO・作品展等への参加ができた。 ④「ぎんがタイム」では、中学部と連携し、生徒が主体的に活動できる運営ができた。	①インテーク会議の実施、講師派遣や幼保小中高校等へのコンサルテーション、教育相談等の評価の仕方を整理する必要がある。 ②乳幼児相談は周知を図っているが、関係機関に知られていない部分も多い。 ③一定の時期にイベント等が集中するため担当教員の負担軽減のための役割分担の整理に工夫が必要である。 ④合同学習を行うにあたり、授業を合わせることに苦労している。全体を見ながら、日課について改訂していく。	・これからもセンターの機能を発揮することを期待している。 ・相模原市の福祉関係のネットワークの一元化は難しい。 ・他学部や他部門、他学年の様子や授業から、子どもに寄り添う姿とともに子どもの自発的な動きを促す支援について大いに評価できる。 ・地域の方々とのつながりを作っていくよい機会となるよう期待している。 〈保護者アンケート〉 学校へ行こう週間や交流デイ等地域に開かれた学校づくりを進めているか:B以上94%	①②保護者からの相談は丁寧に対応し、地域のセンター的役割では、相模原市の支援教育の充実を目指して、各種研修会への講師派遣や幼保小中高校等へのコンサルテーション、教育相談等を実施した。福祉関係のネットワークの一元化が課題。 ③「学校へ行こう週間」中に福祉機器体験会を開催することは障害への理解啓発を図る点で有効であった。 ④校内のインクルーシブ教育推進のための学部・部門・学年を超えた共同学習では、教員の意識も高まり、充実した共同学習が展開されている。さらに効果的な活動となるよう担当者同士で目的やねらい等共有することが必要である。	①②市のネットワークづくりに参加できるよう、学校からの発信を積極的に行うとともに、地域のニーズや情報収集に努め、相模原市の支援教育のランドマークを目指す。 ③行事を精選し、来年度から学部ごとの学習発表会と交流デイを一本化し、地域に開かれた学校づくりの具現化した行事として実施する。 ④取り組みの評価を基に課題を整理し、学部・部門・学年を超えた共同学習を計画的に継続、発展させる。
5	学校管理 学校運営	(1)信頼と期待に応える学校づくりを推進する (2)安心で安全な教育環境の整備に取り組む (3)不祥事防止の徹底	教育環境の整備及び防災教育を推進する	①心で安全な教育環境整備のための方法を検討し推進する。 ②緊急捜索、不審者対応、救急搬送等の訓練を実施するとともに、マニュアルの見直しや修正を行う。 ③保護者や地域を巻き込んだ防災研修を実施し、防災教育を推進する。 ④福祉避難所としての機能を研究し、相模原市や関係機関との連携を推進していく。 ⑤不祥事防止会議や全校打ち合わせ、学部会等を通して情報を共有し、不祥事防止の徹底を図る。	①安心で安全な教育環境整備のための方法を検討し実施できたか。 ②緊急捜索、不審者対応、救急搬送等の訓練を実施し、マニュアルの見直しや修正を行うことができたか。 ③防災研修や防災教育を実施できたか。 ④福祉避難所としての機能を整備できたか。 ⑤不祥事防止のための情報を共有し、課題を把握し、対応できたか。	①駐車場や駐輪場にラインを引くなどの整備を行った。 ②それぞれの訓練等を経て、実施マニュアルを見直し更新することができた。 ③校外学習と連動した防災教育を実施した。 ④近隣の自治会が行う避難所開設訓練に参加した ⑤不祥事防止について、クラス、学年で具体的な手立てを検討し、学部会を通して情報の共有を図った。	①安全安心な駐車場利用のため、駐車場内の速度表示について検討する。 ②食に関する指導、医療ケア等の手引きの見直しが必要。 ④福祉避難所開設までの校内の体制のマニュアル化が必要。 ⑤引き続き情報を共有し、不祥事防止の徹底を図る。	・地域に開かれた学校にするため安全対策には力を入れることが必要。 ・校外学習の医療ケア等のあり方についての検討が必要。 ・個人情報保護については、社会的な問題にもなっているため、今後も意識した取り組みに期待している。 〈保護者アンケート〉 日ごろから緊急時の対応や防災対策に取り組んでいるか:B以上94%	①防犯カメラやライトの設置、駐車スペースの整備等を行い安心で安全な校地整備を行った。 ②③マニュアルを見直しや更新とともに、緊急捜索等の訓練や地域を巻き込んだ防災研修を通して防災教育への意識向上が図られた。また、毎月実施したシェイクアウト訓練時の子どもの避難姿勢から積み重ねの大切さを全職員で共有することができた。 ④地域主催の避難所開設訓練等への参加を通して得た情報を、福祉避難所マニュアルに反映させることができた。 ⑤誤配付に十分気をつけてはいるが、チェック体制の見直しや意識付けが必要である。	①修繕箇所等については事務室と連携を図り、修繕依頼票を有効的に活用し迅速に対応する。 ②③学校防災活動マニュアルをもとに防災ハンドブックの内容の整理と更新を行う。次年度の避難訓練にこれまでの反省を反映した計画を作成し、防災教育の推進を図る。 ④相模原市との連携に努めながら、福祉避難所開設までの校内体制のマニュアル化を図る。 ⑤個人情報の紛失、誤配付が起らないようチーム力を高め、チェック体制、管理体制の強化に努める。